

☆世 界

綿花見通

中国の国家備蓄の拡大が続く

国際綿花諮問委員会（ICAC）によると、2011/12年度の世界の綿花生産は、前年比 8%増の 2,680 万ト、消費は前年比 2%減の 2,390 万トとなる見通し。2011/12年度の期末在庫は、生産が消費を 290 万トほど上回るため 1,190 万トにまで回復する見通し。

中国政府が備蓄を再開したことにより、2011/12年度の世界の在庫に占める中国のシェアは 2010/11年比で 40%近く拡大する。中国は昨年 10月 8日から 12月 30日の間だけで 210 万トの国産綿花を備蓄用に購入し、その後も購入を続けている。今期、備蓄用の国産綿花購入の数量制限はない。このほか中国は他国産の綿花約 100 万トを買い付けており今後数ヶ月にわたり中国に輸出される予定との報告もある。中国政府の備蓄は、2010/11年期末までにほぼ底をついたが、少なくとも 300 万トに達する見込み。中国は今期後半にも備蓄在庫を国際市場に投入する可能性もある。2011/12年度の中国を除く世界の綿花在庫は前年比 26%増の 870 万トと予測され、これは過去 4年で最高である。

需要低迷と在庫拡大を受けて、Cotlook A インデックス（綿花価格の指標）は昨年 12月にポンド当たり 93セントに下落した。2011/12年度の最初 5ヶ月（8-12月期）の Cotlook A インデックスは 2010/11年の同年価格である 164セントから約 33%減の 109セントと予想されている。

世界の綿花需給見通し

(100 万ト)

	2010/11	2011/12	2012/13
生産	24.9	26.8	24.9
消費	24.5	23.9	24.7
輸出	7.6	7.6	8.5
期末在庫	9.0	11.9	12.2
価格*	1.64	1.09**	

*Cotlook A インデックス (ドル/ポンド)

**2011年 8-12月期の平均価格

☆中 国

繊維業況

産業用繊維品及び不織布産業の現状

華鐘通信はこのほど、過去 10年で急成長している中国の産業用繊維品産業及び、産業用繊維品の加工技術の 35%以上を占める不織布産業の

2010年の状況を以下の通り発表した。

(1) 産業用繊維品

- ・生産量は821.7万トン、生産額は4,000億元（約631.2億ドル）超。
- ・輸出額は、110億ドルで輸出先国はアジアが主。輸入額は、24.6億ドルで米国・日本が主な輸入相手国。
- ・一定規模以上の企業（年間主要業務収入が2,000萬元以上の企業）は約2,500社（2000年対比1,500社増）。
- ・就業者数は約70万人。
- ・浙江、江蘇、福建、広東、山東省の生産量が全国の8割を占める。
- ・超高分子量ポリエチレン(UHMWPE)、アラミド繊維、ポリスルホンアミド(PSA)繊維、ポリフェニレンサルファイド(PPS)繊維の産業化で飛躍的進歩を遂げ、防弾複合生地、耐熱フィルター材料、難燃防護服等の末端製品の開発が進んだ。国産の溶剤法繊維素繊維、PLA繊維、竹繊維及びヘンプ繊維が新たに生まれ、抗菌を促進し、医療衛生製品への応用が可能となった。

(2) 不織布

- ・生産量は279.5万トン。
- ・一定規模以上の企業の年間労働生産率は59.8萬元/人に達し、紡織工業の38.2萬元を大きく上回った。
- ・2010年1-11月、主要業務収入は前年比30.2%増の546億元（約86.17億ドル）で、利益は前年比56.6%増の28億元（約4.42億ドル）となった。
- ・技術面でブレークスルーを遂げたことから、製品の均一性、手触り、厚み等の面で大きく進歩した。縦編みや立体編立て技術の進歩は、複合フレーム材料の加工領域を開拓し、風力発電の羽、衛星フレーム、ロケット噴射口コート(カバー)等、難度の高い技術の壁を乗り越えた。厚手高速紡織技術、多層自動複合技術は、高強度の土木作業布、ハイレベル医療衛生材料の産業化を進めた。

過去10年の生産量変化状況

単位：万トン

生産量	2001	2002	2003	2004	2005
産業用繊維品	190.0	208.1	261.8	318.5	365.4
不織布	56.9	63.3	83.6	104.3	117.7
生産量	2006	2007	2008	2009	2010
産業用紡織品	453.7	544.3	606.5	703.2	821.7
不織布	139.7	172.2	200.2	240.9	279.5

出所：日刊華鐘通信

関 税**ACFTA で PTA がゼロ関税へ**

中国税関は、アセアン産 PTA (HS 番号 29173611) および QTA (HS 番号 29173619) について、アセアン中国 FTA (ACFTA) の合意に基づき、2012 年 1 月 1 日より関税をゼロとすることを発表した。これまでは通常 (MFN) 税率である 6.5% が課されていた。

2010 年の中国の PTA 輸入量は 664 万ト。うちアセアン諸国からの輸入量は下表の通り。

中国のアセアン諸国からの PTA 輸入 (ト)

	2010 年	2011 年 1-11 月
タイ	634,545	522,272
インドネシア	26,442	36,668
マレーシア	9,531	4,963

タイは、アセアン最大の中国への PTA 輸出国で 2011 年 1-11 月は 52.2 万トとなっている。中国政府は、2010 年 8 月、タイ産 PTA に対して AD 措置を講じている (企業別 AD 税率は 6.0~20.1%)。業界関係者によると、AD 措置後も、AD 対象とならない加工貿易向けの輸入を中心に、中国のタイからの PTA 輸入は当初の見通しほど減少しなかったが、今回の関税ゼロによって、タイ企業への関税は AD 税率のみとなり、例えば、タイの大手 PTA メーカー SMPC (Siam Mitsui PTA) への AD 税率は 6.0% と、台湾産の関税 (通常税率の 6.5%) より低くなることもあり、徐々に、タイから中国への PTA 輸出が増えるとの見方がある。

インドネシアの PTA 設備能力は 220 万ト/年、国内市場向けが多いが、2012 年以降、中国向け輸出を拡大意向の企業もみられており、業界関係者によると、中国のインドネシアからの PTA 輸入が現在の 4 万ト程度から急拡大するとの見方がある。

マレーシアの PTA 設備能力は全体で 65 万ト、主に国内市場向けであり、中国向けの輸出は 2011 年 1-11 月で 5,000 ト弱にとどまる。

関 税**CPL の関税を 1 月から 9% に引き上げ**

中国政府は、カプロラクタム (CPL) の関税に関して、2012 年 1 月 1 日から暫定税率 (7%) を廃止して 9% の通常関税 (MFN) へ引き上げた。

昨年 12 月に関税引き上げが発表されて以降 (海外速報 910 号 2011/12/20)、一時中国市場では日本や台湾などの CPL を買い集める動

きもあったが、市場全般が弱含みであったこともあり大きな混乱はなかった。

☆ ト ル コ

炭素繊維

Dow と Aksa、炭素繊維で合弁会社設立へ

Dow Chemical の子会社の Dow Europe と、トルコのアクリル繊維メーカーの Aksa Akrilik Kimya Sanayii は昨年 12 月、折半出資で炭素繊維及び関連製品の合弁会社を設立することで合意した。

合弁会社は、トルコ北西部 Yalova 地方にある Aksa の炭素繊維工場を拠点とし、大規模で集約した設備を導入し、最先端の炭素繊維を生産する。投資額は 5 年で 10 億ドルの予定で、最大で 1000 人の雇用創出が見込まれている。

現在の炭素繊維複合材の世界市場は 100 億ドルと見積もられ、2022 年に 400 億ドルに達すると予測されている。Aksa は、輸送（自動車、高速列車、船、大型車両等）、風力エネルギー技術、建設など重要産業を抱えるトルコにおける炭素繊維複合材の将来性に期待を示した。

以 上